



公務員試験

アガルートアカデミー合格体験記

AGAROOT ACADEMY SUCCESS STORY

[Voice of Successful applicants]

"Public Officer Examination"

合格体験記

令和5年度 公務員試験合格

単純な努力をできるかが合否を分ける

堀田 楓さん

内定先：厚生労働省 学生

受講したカリキュラム

地方上級・国家一般職＋専門職・裁判所カリキュラム

合格体験記

公務員を目指すきっかけ

私は困っている人とその周りの人の暮らしを支えたいと考え、公務員を目指しました。幼い頃自分の祖父が病気となり、介護が必要となった際、社会保障制度などの公的制度に助けられることで祖父や祖父を介護する家族が助けられました。この経験から私は社会保障制度をはじめとする公的制度が困っている人とその周りの人の暮らしを支えるものであると考えました。公務員となって人の暮らしの基盤を支える制度や政策の企画立案や施行に携わり、多くの人の暮らしの基盤を支えたいと思い、公務員を志望しました。

アガルートをお選びいただいた理由

アガルートを選んだ理由は3点あります。

1点目は受講料金の安さです。他の予備校や大学生協の講座に比べ圧倒的にアガルートは安かったです。

2点目は対応する科目の多さです。最初は国家一般職の他に国家専門職を考えていて、特に国税専門官に興味がありました。他の予備校や大学生協の講座だと国家総合職や国家一般職の対応が中心で、会計学や商法、経営学など国税専門官になるために必要となる科目まで対応できないことが多かったのですが、アガルートは会計学や商法、経営学まで対応しており、対応していると書かれている受験区分にはアガルートの学習範囲だけで対応できて、追加でなにか講座等を取る必要がないことも魅力でした。

3点目は面接練習が無制限なところです。他の予備校や講座では面接練習の回数が決まっていることや予約がとれないということがよくありますが、アガルートでは面接練習は何度でもでき、またオンラインのためどこにいても受けられる点もよかったです。

学習の方針と進め方

大学2年の2月から学習を始め、夏頃までに専門科目の主要5科目と呼ばれる民法、憲法、行政法、ミクロ経済学、マクロ経済学と教養科目の文章理解と数的処理の講座を視聴し、問題集を解いていました。秋頃からは教養論文や専門科目の刑法や労働法、財政学や行政科目の講座を視聴していました。秋頃も主要5科目や文章理解と数的処理は毎日少しずつ問題集を解き、年内には3周していました。年明けからは過去問演習や面接対策、(説明会に行くことで国家総合職に興味を持ったので)単科で国家総合職の政策論文講座と専門記述講座を取り、講義の視聴や問題演習に取り組んでいました。直前期の3月以降も過去問演習や記述対策、面接対策を主に行っていましたが、加えて官庁訪問対策や自治体研究なども行っていました。

失敗経験や挫折とそれを乗り越えるための工夫

公務員試験勉強を進める中で論文を書くことがあまり得意ではなく、添削が返ってきて落ち込んだことも沢山ありました。最初はCやDといった評価を見て落ち込むことや、「まだまだです」といった総評を見て落ち込んでしまうことが多かったです。結果や総評にとらわれすぎず、何がダメだったのか、どうしたら良くなるかということに注目し、返ってきたものを書き直してみるなどダメだったところを改善するよう工夫をすることで、論文に対する苦手意識を取り除き、書き方を学ぶことで論文がうまく書けるようになりました。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法(使い方)

①教養試験対策

数的処理の問題集の収録問題数の多さと解説の多さが良かったと思います。数的処理に関してはこれ1冊だけで完璧に対策できると思います。また人文科学や自然科学、社会科学などの科目は深入りすると範囲がとて広く非効率になりやすいところ過去問から頻出のところを抜き出し、効率的に学べるように作られていて良かったと思います。

使い方としては文章理解と数的処理は、まずは解けなくてもいいので自力で問題を解いてみて、その後講義をしっかりと見るというのがいいと思います。2周目以降は分からない箇所だけ講義を見ながら試験当日まで何度も解くことが大切だと思います。人文科学、自然科学、社会科学は講義を視聴し、テキストに載っている問題を解いたり、実際の過去問などを解いて出たところにマークをつけて直前に見返せるノートを作るつもりで講座を受けるといいと思います。

②専門試験対策

専門試験講座の良いところは問題数の多さとテキストの見やすさだと思います。民法、行政法、憲法に関しては、テキストの他に問題集がついていて、これ1冊を3周するだけで大体の公務員試験に対応できる力が身につきます。またテキストには、法律系科目だと判例や図がついていて、経済系科目ではグラフがついていることでわかりにくい部分でもわかりやすいように書かれています。特に法律系科目の判例の掲載数は多く、また単に判

令和5年度 公務員試験合格

公務員試験は努力を裏切らない試験

堤 光翼さん

内定先：労働基準監督官 学生

受講したカリキュラム

地方上級・国家一般職＋専門職・裁判所速習カリキュラム

合格体験記

公務員を目指すきっかけ

第一志望だった労働局の説明会で労働災害の悲惨な現実を知り、労働の現場における事故を何としてでも無くしていかなければならないと思ったからです。労働災害は適切な対策を行うことで減らすことができると知り、労働基準監督官としてその第一線で働きたいと思ったのです。また、私は幼いころから正義感が強いところがあり、許されないものは許されないのだと言いたい気質がありました。労働者や使用者が危険だと認識していてもそれが見逃ごされ、その結果労働災害につながってしまうという事案も多くあると知り、私の性格としてもこの職業に向いていると考えたのです。そして、国家公務員の専門職として、一般的な行政職員よりも専門的な仕事を究められるのも勉強好きな私としては魅力的でした。

アガルトをお選びいただいた理由

独学で学びを進めようかとも考えましたが、なんとなく心細く感じたため、比較的安価に利用できるサービスを探していたところ、祝い金制度があるこのアガルトというオンライン予備校が候補に上がりました。内定を得て合格体験記（当サイト）を執筆するだけで、利用金額が全額戻ってくるというもので、実質無料で利用できるのは大変魅力的でした。また私は大学受験の際にとある映像授業のサービスを利用しており、このようなサービスに慣れていたので、その時と同じようにアガルトの映像授業を受講すればよいと考えました。その中でも私の利用した速習カリキュラムは重要な部分が厳選されていたため、夏から勉強を開始し、若干スタートが遅れてしまった私にとって最も適切なプランであると考えました。

学習の方針と進め方

年明けまでに専門試験の憲法・行政法・民法・ミクロ経済・マクロ経済の講義動画の視聴を終わらせ、その後は労働法、社会学、刑法、併願に使うその他の科目に取り組みました。ただ実際進めてみると、行政法が年が明けても終わらず、少し焦っていました。講義動画を見た後は、適宜問題集などで演習を重ね、実力を定着させていくように努めました。教養試験の勉強は一般的なスケジュールと比べてかなり遅めですが4月ごろから始めました。知能分野は演習を中心に、知識分野は憲法や経済学の知識で解ける問題や高校時代に履修した倫理・世界史・物理・化学などを中心に「思い出す」作業を行いました。

失敗経験や挫折とそれを乗り越えるための工夫

あまり手本になる話ではないかもしれませんが、苦手分野を作ってしまったことです。どうしても難しい分野は理解せずに放置し、その分のブランクは他の「学系科目」で補うようにしていました。自分と相性の悪い分野は誰でも存在すると思います。一方で「学系科目」はほとんどが暗記のもので理解しやすい場合も多いです。個人的な意見ですが、苦手分野の理解に膨大な時間を使うくらいならほかの科目をその分の埋め合わせにするというような柔軟性も時には重要ではないかと思います。もっとも、最重要の頻出分野が苦手だという場合は例外で、時間を割いてでも理解に努めるべきだと思います。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法（使い方）

①教養試験対策

文章読解・数的処理・判断推理・資料読解など知能分野は、テキストを中心に演習を行うことで、確かな実力が付いたと思っています。講義動画をすべて見るのは効率が悪いと思い、解説を見てもわからない問題だけ厳選して視聴していました。人文科学・自然科学は、高校で履修していた範囲を厳選して取り組みました。社会科学は、憲法や経済学、政治学、そして時事にも関連があり、専門試験対策で取り組んだ時に一緒に取り組むようにしていました。

②専門試験対策

主要科目の法律や経済学は講義動画を見てざっくり概要をつかんだ後、問題演習をして実力をつけるようにしていました。特に経済学は得意科目にすることができ、多少ひねった問題が出題されても対応できるようになりました。サブ科目（社会学など）は、アガルトのテキストに市販の問題集でつかんだポイントを直接書き込むようにしていました。また、刑法のテキストは1冊で概要把握から簡単な問題演習まででき、直前の話込みには最適のテキストだったと思います。

③人物試験対策

これまで面接の経験がほとんどなかったため、講義動画を通じて「面接とは何か」という部分が理解できました。ほかにも民間志望の友人に面接について相談していましたが、

令和5年度 公務員試験合格

講義と演習の繰り返しで理解を深める

平井 千裕さん

内定先：東京税関 学生

受講したカリキュラム

地方上級・国家一般職＋専門職・裁判所カリキュラム

合格体験記

公務員を目指すきっかけ

やりたいことに現実的に携わることができるのが公務員だと考えたからです。大学2年生までは検察官という夢があり、司法試験を受けたいと思っていました。しかし、就活が現実になる時期に様々な事情を考慮すると、司法試験合格を目指すことは難しいという結論に至りました。ただ、司法の世界に携わりたいという夢を諦められなかったため、異なる角度から司法に携わることのできる職種がないか探していました。その時に出会ったのが公務員でした。調べていくうちに公務員の中には、裁判所職員や検察事務官という職種があり、やりたいことを叶えることができる唯一の手段ではないかと思うようになりました。このようなことをきっかけに公務員に興味を持ち、目指すようになりました。

アガルトをお選びいただいた理由

大きな決め手になったことは、他の予備校と比べて価格が安かったからです。もともと司法試験に挑戦しようと考えていた時期があり、予備校を探していた時にアガルトを見つけました。大学で法律を学んでいるので少しは知識がありましたが、公務員試験の試験科目の多さから法律科目は絶対に落とせないと考えていました。司法試験予備校として有名なアガルトで法律科目に自信を持てるようにしたかったため選びました。また、公務員試験を受けるにあたってできる限り自分自身で費用を負担したいと思っていましたので、価格も重要視したいところでした。その点で、アガルトは他の予備校と比べて安く、講座内容も満足でしたので最終的にアガルトを活用して頑張ってみよう決めました。

学習の方針と進め方

学習の方針はしっかりと決めていたわけではありませんが、国家一般職が第一志望ということははっきりしていましたので、専門科目に力を入れるようにしました。年内に専門

の主要6科目の過去問を2周終わらせることを大きな方針として進めていました。法律科目は講義を聞いて覚えられていないところは覚えながら合わせて過去問を解くようにしていました。初めての経済科目は講義を聞き、分からないところは参考書で調べながら教材にある問題で繰り返し練習しました。3月くらいまでは専門科目重視で進め、4月以降は教養科目にも取り組むようにしながら専門科目に抜けないように繰り返す作業をしていました。

失敗経験や挫折とそれを乗り越えるための工夫

特に経済系科目に関しては初学者であり、なかなか難しかったり解けるようにならなかつたりして、間に合わないのではないかと不安で挫折するようなことが多くありました。大学の友人に公務員試験を受けることを伝えていなかったことや、教室通学型ではなかったことから相談できる相手や切磋琢磨できる人がいなかったことも諦めそうになってしまう原因だったと思います。これらを乗り越えるために工夫したことは2つあります。1つ目は、毎日何かしらの形で勉強すること、2つ目は息抜きをしっかりとすることです。忙しい日は、時間を取って問題を解くのではなく、間違えた問題を見返す、暗記科目をやる、講義を聴くなど、数分でできることをするようにしていました。また、やる気が出ないとき、休むと決めたときはとことん休むというメリハリを大事にしていました。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法（使い方）

①教養試験対策

問題数が多いところと、覚えるべきところがコンパクトにまとまっていたところが良かったです。数的や判断推理、文章理解などは量を積み重ねることが必要な科目なのでごくありがたかったです。また、何回でも解きなおせるようになっていたのもよかったです。暗記系科目はよく出るポイントがまとまっていたので高校まででやったことのない科目も無理なく取り組むことができました。講義1回終わるごとに問題がついていたのもよかったです。暗記系科目についてはその問題でこういう風に聞かれるのだなということ把握しておくことより覚えやすくなると思うので、聞いたら解く、を繰り返して習慣づけるといいです。また、暗記系科目の教材は試験会場に持っていくようにしていました。最後の確認にも使いやすかったです。

②専門試験対策

特に経済科目は講義と問題集が一体となった形で、講義を受けて問題を解くというルーティンができたのが良かったです。ポイントとなる問題が収録されているので、過去問を解きながら分からなかったら似たような問題を探して解説を聞き解決できました。法律科目は、よく出るところを強調してくださったので、メリハリをつけながら勉強できたと思います。過去問を解きながら覚えていないところを教材で見返す、よく出るところを復習するというように参考書の使い方をしていました。